

## 環境安全衛生品質マネジメントシステム

日本化薬グループは、「環境・安全・品質」に関する課題をあらゆる経営課題に優先し、グループ全体で取り組んでいます。また、しっかりとした体制を構築し、事故や労働災害の未然防止に努め、環境負荷低減に取り組んでいます。

### 環境と安全と品質に関する私たちの宣言

日本化薬グループは、CSR理念とレスポンシブル・ケア※1精神のもと、環境保全、安全衛生の確保および品質保証の維持・向上に努めるため、「環境と安全と品質に関する私たちの宣言」を制定し、組織的な活動を行っています。

#### 環境と安全と品質に関する私たちの宣言

平成7年11月7日 制定  
平成22年9月1日 改訂

私たちは、生命と健康を守り、豊かな暮らしを支える製品と技術で人類に貢献しつづけることを目指し、努力を重ねています。

私たちの活動は、人々の健康や安全、或いは財産をおびやかしたり、環境を破壊することがあってはなりません。

私たちは、「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」をKAYAKU spiritとして日本化薬グループで取り組んでおり、次の基本方針によって行動します。

#### 基本方針

1. 私たちは、製品の研究・開発から生産・販売を経て廃棄に至るまでのライフサイクル全体にわたり、環境・健康・安全に与える影響を評価し、十分な配慮を行います。
2. 私たちは、品質に責任を持ち、お客様が満足される製品の開発と改善に努めます。
3. 私たちは、環境保全・安全衛生・製品品質に関する意識を高め、無公害・無事故・無災害および製品安全の達成に努めます。
4. 私たちは、製品の安全な使用と取り扱いについての必要な情報を、お客様に積極的に提供します。
5. 私たちは、環境保全に寄与するため、省資源・省エネルギー・地球温暖化対策をなお一層推進します。
6. 私たちは、環境保全に対しても積極的に技術の開発を行い、その応用に努めます。
7. 私たちは、製品や操業に関して、市民の方々や行政当局の正しい理解が得られるようコミュニケーションを深めることに努めます。

平成27年6月25日  
日本化薬株式会社 代表取締役社長

鈴木政信

※1【レスポンシブル・ケア（Responsible Care）】化学物質を製造または扱う企業が化学物質の開発、生産、販売、消費から廃棄に至るまでのすべてのプロセスにおいて、自ら積極的に「環境」「安全」「健康」面に配慮した対策を行う活動。1985年にカナダで誕生した後、世界に拡がり現在では50カ国以上で実施されています。

### 生産技術本部長メッセージ

日本化薬グループは化学技術を基盤として発展し、いまや多種多様な製品の開発・製造を行っています。市場の要求を満たすため、これまで長年にわたって培った技術や最新の知見を駆使して高品質な製品を安定供給すべく日々取り組んできました。

安全操業は、個々の従事者の自覚とそれを支えるシステムの充実が重要との認識に立ち、製造従事者の世代交代および製造所のグローバル展開に際する安全操業態勢の確立のため、教育やフォローアップに従来以上に力を入れています。

CO<sub>2</sub>排出削減、リサイクル率の向上、廃棄物低減などの環境対策については、規制への対応はもとより、将来の事業継続性を維持するためにも必要な地球環境の保全を目指し、製造工程や生産規模に適した技術的なベストミックスを確立すべく取り組んでいます。

今後もすべてのステークホルダーの満足を得るため、品質の維持向上とともにレスポンシブル・ケア活動を続けてまいります。

### 日本化薬グループのレスポンシブル・ケア

グループ各社が「安全をすべてに優先させる」取り組みを共通で進め、日本国内だけでなく海外現地の法令遵守をはじめとして、環境・安全に関わる事故災害の未然防止を図ること、及び、KAYAKU spirit の実現に向け、「環境と安全と品質に関する私たちの宣言」に沿って日本化薬グループの社員全員で活動を進めています。

2016年度もこの主旨を継続し、さらに方針名称も含めてレスポンスブル・ケアの精神を反映させた次の方針をグループ全体で確認しました。

### 2016年度レスポンスブル・ケア方針

日本化薬グループ各社は、レスポンスブル・ケア精神及び日本化薬グループの「環境と安全と品質に関する私たちの宣言」に沿って事業活動に取り組む中で、「安全をすべてに優先させる」ことを基本に社員全員で活動を行う。

日本化薬グループ各社は、各項目において、各国、各社の実情にあった目標を掲げ、活動に取り組む。

#### ①「事故災害ゼロ」へ向けた取り組みの推進

“重大事故災害ゼロ”

日本化薬グループ各社は、リスクアセスメント、KYT・KYK(危険予知訓練・活動)等の他、各国、各社の工夫を凝らした安全衛生活動を進め、事故災害の未然防止を図る

#### ②地球温暖化防止と環境負荷低減に向けた取り組みの推進

“温室効果ガス排出量の把握”

日本化薬グループ各社は、各国、各社にあった目標を掲げ、環境にやさしい会社を目指す

#### ③化学物質管理の充実

日本化薬グループ各社は、SDSの活用、GHS対応等により化学物質の危険有害性を正しく把握し、適正な管理を推進する

## 環境・安全・品質に対する取り組み

日本化薬グループは、環境安全衛生の強化として、事故災害の未然防止対応、環境目標の達成、自然災害の事前対応、廃水処理技術の開発と向上推進、省エネルギー活動、健康づくりなどに取り組まれました。特に、ここ数年化学企業の大きな事故災害が続き、日本化学工業協会で作成した「保安事故防止ガイドライン」を活用し潜在リスクの洗い出しによる事故災害の未然防止に取り組まれました。

2016年度は、引き続きグループ環境安全衛生の取り組み推進、安全教育体系の整備、全社統一の安全教育の実施に取り組まれます。特に、指差呼称、KYT、作業前KYの実施を重点的に取り組まれます。また、非常時作業を含む潜在リスクの徹底的洗い出しによる事故災害の未然防止に継続的に取り組むとともに、国内で法制化される化学物質のリスクアセスメントを確実に実施し、日本化薬グループの環境安全衛生のさらなる向上を進めます。

品質では、品質管理技術力の向上や顧客満足度の向上（顧客苦情および品質工程異常の低減）に取り組まれました。

品質に関する教育は、統計解析手法の実践的な研修"Field Data 解析～おもしろい体得塾～"の実施や外部講習への派遣、「内部監査員教育」の工場出張講習等を実施しています。この他に「品質改善事例集」を発行し、品質改善手法の普及を進めました。

顧客苦情および品質工程異常については再発防止策の強化のために当社版「なぜなぜ分析マニュアル」をもとにした職場での"なぜなぜ分析"の実施を推進しました。2015年度は、さらに、本マニュアルを中国語に翻訳したものを使用して中国のグループ会社に対しても"なぜなぜ分析"の実施に向けた研修を行いました。



安全に関する基本的な研修を全事業場に対して2年間かけて実施

### 当社版「なぜなぜ分析マニュアル」作成

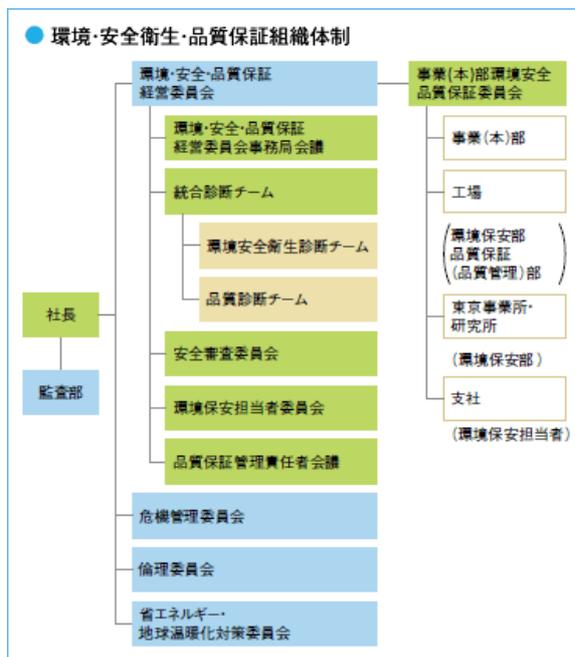
当社の不適合事例は、過去に発生した事例と似通った事象が多くあり、原因の根本にあるものを追及する力が不足していると分析しました。そこで、原因と結果の関係を正確に把握し、背後にある"根本原因"を炙り出し、類似事例の再発を防止することを目指してなぜなぜ分析の導入を決めました。各工場から推進メンバーを集め、当社版「なぜなぜ分析マニュアル」を作成しました。このマニュアル（日本語版と中国語版）をもとに各職場でなぜなぜ分析を実践しています。



## 全社における環境安全衛生・品質保証管理

日本化薬グループでは、社長を委員長とする環境・安全・品質保証経営委員会を中心とした管理体制により、環境安全衛生の確保、品質保証の維持向上に努めており、組織的な活動として国内事業場および海外5工場の中央環境安全衛生診断・中央品質診断などを行っています。

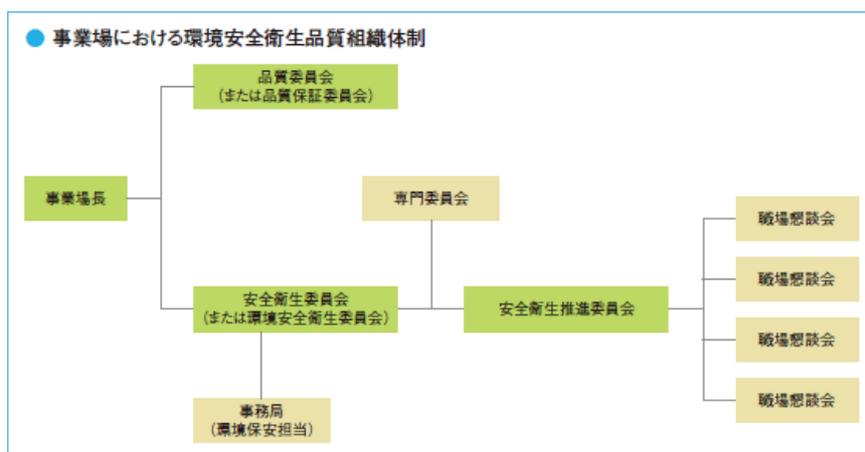
▶ 環境・安全衛生・品質保証組織体制 [概要 PDF](#)



## 事業場における管理体制

各事業場では、事業場長を委員長とする安全衛生委員会または環境安全衛生委員会を組織しています。また安全衛生委員会または環境安全衛生委員会の下部組織として、事業場の各職場の代表者をメンバーとした安全衛生推進委員会が組織されています。安全衛生委員会または環境安全衛生委員会で討議された事項は、安全衛生推進委員会を通して各職場の職場懇談会で全従業員に周知されます。また逆に、職場懇談会、安全衛生推進委員会で議論された内容が安全衛生委員会あるいは環境安全衛生委員会にフィードバックされる仕組みもできあがっています。

また各事業場では、品質保証（管理）部が主導して品質（保証）委員会を定期的開催し、各事業場で取り扱う原材料や製造された製品の顧客苦情・品質工程異常の状況確認と、その撲滅に向けて討議を行っています。新製品、改良品、既存品の品質上の課題について討議を行い、より一層の品質向上に努めています。



## 品質保証システム・環境管理システムの認証取得状況および GMP の認可状況

日本化薬グループでは、優れた品質の製品・サービスを環境に配慮しながら開発・提供し、お客様に信頼され満足いただくために、環境管理の国際規格であるISO14001および品質保証の国際規格であるISO9001の認証取得継続を進めます。

環境管理マネジメントシステムISO14001については1998年から認証取得を開始し、日本化薬6工場で認証を取得後、海外を含むグループ会社も認証取得を進めています。

品質マネジメントシステムISO9001については、1995年に厚狭工場、福山工場、東京工場、鹿島工場で認証を取得した後、さらなる顧客満足度向上を目指して、研究開発から製造、販売、サービスまでのトータルの品質保証活動を進めるために事業（本）部、研究開発部門をも含めた認証を取得しました。また、国内及び海外グループ会社での認証取得を進め、事業プロセスに沿ったグローバルでの品質保証体制の確立を進めています。

また、自動車関連の海外グループ会社では、ISO9001の要求事項に自動車業界共通の要求事項を追加したISO/TS16949の取得も進んでいます。高崎工場では、「医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理の基準に関する省令」（GMP省令）による製造業許可を取得するとともに、アメリカ、ヨーロッパ（EU）から認証を受けています。

● 品質保証マネジメントシステム・環境管理  
マネジメントシステム認証取得事業場一覧

事業場名	● ISO9001	ISO14001
	■ ISO/TS16949 ※2	
福山工場	● 1995年 6月	1999年 4月
厚狭工場	● 1995年 1月	1998年 9月
東京工場	● 1995年 6月	1998年 12月
高崎工場	● 2003年 7月	2000年 1月
姫路工場	● 2007年 9月	2001年 1月
鹿島工場	● 1995年 12月	1999年 3月
機能化学品事業本部	● 2001年 1月	—
医薬事業本部	● 2003年 9月	—
セイフティシステムズ事業本部	● 2007年 9月	—
アグロ事業部	● 2003年 9月	—
(株)ボラテクノ	● 1999年 1月	2002年 8月
日本化薬フードテクノ(株)	● 2003年 11月	—
化薬化工(無錫)有限公司	● 2005年 3月	2006年 8月
マイクロケム CORP.	● 2002年 4月	—
無錫先進化薬工有限公司	● 2007年 4月	2007年 7月
インデット セーフティシステムズ a. s.	■ 2002年 3月	2002年 12月
化薬(湖州)安全器材有限公司	■ 2014年 5月	—
カヤク・セイフティシステムズ・デ・メキシコ,S.A. de C.V.	■ 2014年 2月	—
モクステック,Inc.	● 2012年 7月	—

● GMP※3の  
認証状況

事業場名	主な認可国
高崎工場	日本、アメリカ、ヨーロッパ、カナダ、ブラジル

※2 【ISO/TS16949】国際自動車特別委員会メンバーにより全世界の自動車ユーザーに質の高い製品を提供するために共同開発された世界規格。

※3 【GMP】1980年に厚生省令として公布され、安心して使うことができる品質の良い医薬品、医療機器などを供給するために、製造時の管理・順守事項を定めたもの。

**化薬（湖州）安全器材有限公司（KSH）**  
**自動車業界向け品質マネジメント規格**  
**「ISO9001-TS16949」認証を取得しました**

KSHは、2006年に設立した自動車安全部品を製造している中国にある日本化薬グループの会社です。

KSHでは、人の命を預かる部品を製造しているという認識のもと品質をさらに安定させ、顧客の要求事項を満たすため2014年5月に"TS16949"認証を取得しました。TS16949とは、ISO9001中の自動車部品のグローバル調達基準を満たす自動車業界向けの品質マネジメントシステム規格です。

KSHでは、2011年からシステムについての社内勉強会（全従業員対象）を始めました。2年間の準備期間を経て、2013年5月から審査機関による教育を開始し、32人の内部審査員を育成しました。そして、2013年12月の第1回目監査、2014年3月の最終監査を経て、2014年5月無事認証取得に至りました。監査の中では、指摘事項・注意事項があり、最終監査は3日間にわたる厳しいものでしたが、全社員の「必ずTS認証を取る」という強い決意により、達成できました。

これにより、自動車安全部品製造会社として、世界で競争する基盤づくりができスタート地点に立ちました。今後は、さらに「いい会社、強い会社」を目指し、ISO14001（環境マネジメントシステム）、OHSAS 18001（労働安全衛生マネジメントシステム）の取得を目指します。



ISO9001-TS16949



ISOの監査風景



## 各環境・安全衛生・品質保証の概要

### 環境・安全・品質保証経営委員会

社長を委員長とし、役付執行役員、事業本部長および生産技術本部長により構成された全社的な委員会です。環境、安全、衛生、品質保証についての年度方針を策定し、結果を評価して改善を図っています。

### 環境・安全・品質保証経営委員会事務局会議

環境・安全・品質保証経営委員会の事務局として各事業（本）部の技術部長および本社の間接部門により構成される委員会です。年度方針案および実施状況の審議を行い、環境・安全・品質保証経営委員会に答申する他、環境安全衛生ならびに品質保証に関わる重要事項の検討を行います。

### 中央統合診断

従来の環境安全衛生診断と品質診断の両方の診断を実施していた事業場、グループ会社を対象に、両診断をまとめた統合診断を実施しています。統合診断チームは生産技術本部長をチーム長とし、環境安全推進部長を副チーム長とする環境安全衛生診断チームと品質保証部長を副チーム長とする品質診断チームで構成されています。またこれまで環境安全衛生診断または品質診断のどちらか一方のみ実施していた事業（本）部、事業場、グループ会社については従来と同じ診断を実施しています。被診断事業（本）部、事業場、グループ会社は、診断での指摘事項に対して改善実施計画を作成して改善を図ります。また診断の結果は環境・安全・品質保証経営委員会に報告されます。

### 安全審査

新製品の開発および製造、新しい設備の設計および設置、設備の更新、原料の変更、生産委託する際等に実施します。リスクアセスメント等を行い、事故を未然に防止します。

### 環境保安担当者委員会

環境安全推進部長が召集する各事業場、グループ会社の環境保安部、環境保安担当者をメンバーとした委員会で、環境安全推進活動を実施するための問題点、重要事項を議論します。

### 品質保証管理責任者会議

品質保証部長が召集する各事業（本）本部、事業場、グループ会社の品質保証（管理）責任者をメンバーとした会議で、品質保証・品質管理活動の実施状況を討議します。